

World Congress on Osteoporosis, Osteoarthritis and Musculoskeletal Diseases (WCO-IOF-ESCEO Florence 2017)

IOF-WWCおよびWCO-IOF-ESCEOへの参加者

去る3月23日～24日の2日間にわたって、国際骨粗鬆症財団骨粗鬆症患者会世界大会（IOF-WWC 2017）がフィレンツェ（イタリア）で開催されました。それに引き続き、国際骨粗鬆症財団と骨粗鬆症・変形性関節症・筋骨格疾患の臨床および経済面のための欧州会議の合同国際会議（WCO-IOF-ESCEO 2017）が26日まで開催されました。前半の患者会への参加者は、47カ国から57の団体、合計105名、後半のWCOでは、4082名が参加したと事務局が発表しています。

今回、骨粗鬆症財団ではIOFが推進しているPatient Societyの各国の状況を把握し、国内での活動に反映させ、各国とのネットワークを形成するために、事務局から森下・石井の2名が参加しました。WCOでは日本における骨粗鬆症の実情と財団の行っている啓発活動を紹介するため展示スペースにブースを出展しました。



WCOでの骨粗鬆症財団による展示ブース設置

展示ブースでは昨年作成した啓発ポスターを展示し、日本における骨粗鬆症の実態として、骨粗鬆症の推定患者数や大腿骨近位部骨折の全国発生率、検診の実態、カルシウムやビタミンDの摂取状況や予防と治療のガイドラインを紹介するとともに、財団が行っている啓発活動を紹介し、LOVE YOUR BONESのピンバッジを配りました。モンゴル、香港、シリア、ベラルーシ、イタリア、ロシア等、各国からのWCOの参加者に財団のブースに立ち寄りいただきました。情報交換したロシアの骨粗鬆症啓発の団体から帰国後に連絡があり、日本の骨粗鬆症の啓発団体として、ロシアのホームページにて紹介されました。折茂理事長も写真入りで紹介されています。詳しくは以下のQRコードからご確認ください。

IOFグローバル患者憲章

WCOのオープニングセレモニーでは、IOFグローバル患者憲章が公開されました。現在までに病院などが独自に掲げる「患者憲章」というものはありましたが、特定の「疾患」で「患者憲章」とつけられているものは、多くありません。ここでは、骨折（再骨折）しないよう、患者さんが速やかに検査を受け、治療を受ける体制を医療機関、政府は構築していくこと、患者さんは積極的に検査や治療を受けるように意識や生活習慣を変えていこうということが表明されています。現在までに、38の団体が賛同しており、ホームページ上では約800の署名が集まっています。財団では、この活動に賛同し、現在この憲章の日本語版を作成しています。今秋には、広く日本語版の骨粗鬆症グローバル患者憲章を公開したいと考えています。



← ロシア骨粗鬆症患者会Osteorus
（ロシア語ページ）

ロシア骨粗鬆症患者会Osteorus →
（英語ページ）



IOF Global Patient Charter
Taking action for a world without fragility fractures

SIGN UP

Sign the Charter and help make fracture prevention a global health priority.

www.iofglobalpatientcharter.org

IOF Worldwide Conference of Osteoporosis Patient Societies 2017

IOFが主導する患者会（Patient Society）は、1日半の日程で開催されました。参加したメンバーがまずお互いを知るために、初日の冒頭からワークショップです。それぞれの国の参加者は指定されたテーブルに着席して、用意された6つのテーマ（1.患者支援体制、2.資金調達、3.リエゾンサービスの活用、4.キャンペーン、5.SNSの活用、6.患者に治療を続けさせる秘訣）について30分間のフリーディスカッションをすることになりました。それぞれのテーマで、①現状把握、②課題と目標、そして③IOFにサポートしてもらいたいことの三つ視点からお互いのバックグラウンドをもとにディスカッションしました。筆者の参加したテーブルでは、スペイン、シリア、ロシア、リトアニアからの代表が着席。スペイン、ロシアそしてシリアでは医療従事者が



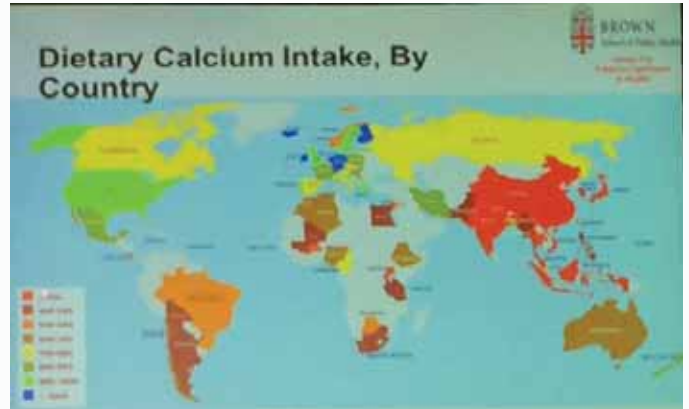
(前ページより続く)

中心となって患者の啓発、情報提供などを行う患者支援の団体として、Patient Societyが組織されていました。今回のIOF事務局側が用意した設問のほとんどは医療従事者がPatient Societyの運営主体と想定されたものであり、これらは、現在国内で活動している「骨を守る会」が直面しているものと同じという印象を受けました。

■ Topics

カルシウム摂取世界地図

今回のWCOではカルシウム摂取量の世界分布が紹介されました。米国のブラウン大学EBMセンターのバーク准教授はシステマティックレビューに記載されているデータを集約して、各国でのカルシウム摂取量を色分けすることで、一目で差がわかる世界地図を作成したことを報告しました。全般的にアジア地域では低摂取量に分類され、日本はその中でも最下位の400mg/日以下にランク付けされました。IOFは過去にビタミンD摂取量や大腿骨近位部骨折の発生状況の世界地図を制作しています。今回、カルシウム摂取量の地域差が明らかにされたことで、骨粗鬆症や骨折の地域差との関連性がより明確になるものと思われます。厚生労働省が公開している国民栄養摂取量の資料では、この数年のカルシウム摂取量は500mg/日を上回るものとなっています。この値は、骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインに記載されているカルシウム摂取推奨量(800mg/日)や欧米での値に比較してまだまだ低値です。アジア人と西欧人との体格の差も考慮する必要はあると思いますが、北欧などでは摂取量が1000mg/日を越える地域もあり、ビタミンD摂取量などとあわせて骨折リスクの分布を考察する上で重要なデータとなることが期待されます。今後、IOFのホームページで公開予定です。



カルシウム摂取量の世界分布図 (赤> 400mg/d以下)、緑> 900~1000mg/d、青> 1000mg/d以上

世界骨粗鬆症デーキャンペーン用のポスター

毎年、刺激的なデザインで話題となるIOFの世界骨粗鬆症デーキャンペーン用のポスター、今年も新しいデザインが揃いました。2017年はグローバルな視野で、骨折を採り上げています。①骨粗鬆症による骨折は世界で年間900万件も発生している、②時計は止められない。しかし、骨粗鬆症の進行を止めることはできる、③50歳以上の女性の3人に1人、男性では5人に1人が骨粗鬆症による骨折を起こす可能性がある、④大腿骨近位部骨折(脚の付け根の骨折)を起こすと、24%が1年以内に死亡する、⑤骨粗鬆症に関連したインフォグラフィックス。このポスターを見ると、骨粗鬆症による骨折の怖さが伝わってきます。財団もこれらのポスターを参考にしながら、今年も新しいキャンペーンポスターを企画しています。8月頃には、公開の予定です。財団のホームページをチェックしてみてください。



引用 : World Osteoporosis Day (<http://worldosteoporosisday.org/node/25>)

既に、500名近い方が登録、精度よくDXAで骨量を測定するe-ラーニングは盛況です。骨粗鬆症の原点は「骨量」です。「骨量」を精度良く測定することが、骨粗鬆症の診断、そして骨折リスクや薬剤の治療効果の判定につながります。e-ラーニング講師の友光達志先生は、「日常の検査のちょっとしたコツがDXAの精度・信頼性を高める」と解説しています。E-ラーニングのお申込み(視聴のみは無料です)はこちらから。

<http://www.jpof.or.jp/foundation/activity/education/dxa/>

■ 精度よくDXAで骨量を測定するためのe-ラーニング

1. 本講習会の目的 公益財団法人骨粗鬆症財団理事 福永仁夫
・本講習会が発足した経緯/DXAによる脊椎・大腿骨骨量測定の意義
2. 骨粗鬆症の診断と治療 川崎医科大学放射線医学(核医学)教授 曾根照喜
・骨粗鬆症の病態と疫学/骨粗鬆症の診断と治療方法
3. DXAによる骨量測定の実際 前川崎医療短期大学放射線技術科准教授 友光達志
・DXA装置の概要と測定原理/腰椎測定の実際/大腿骨近位部測定の実際

平成29年4月2日にAP東京八重洲通りにて、全国骨を守る会連合会が開催され、各地域8つの会の代表が参加しました。

本連合会も今年で6回目を迎え、例年通り各地区の代表から昨年度の活動報告が行われました。昨年度も各会にて市民向けの公開講座が活発に開催され、疾患啓発から骨折の予防方法、運動、栄養まで幅広い内容で講演が実施されました。また、骨粗鬆症予防につながる料理教室の開催など地域独自の企画も行われました。

今回から「仙台骨を守る会」の設立が連合会会員として全会一致で承認され、仙台地区での今後の活動が期待されています。

さらに骨粗鬆症財団では本年度の普及啓発事業方針に地域骨を守る会との連携強化を掲げており、以下の3つを提案しました。

- ① 地域骨を守る会への活動支援金の提供
- ② 新しい骨を守る会の立上げへの協力
- ③ WODイベント企画の開催

併せて、各会からさまざまな情報(イベント,会報,入会案内,ニュースレターなど)をご提供いただきました。これらにつきましては、財団ホームページへ掲載し、情報の一元化を進めてまいります。

骨粗鬆症財団としましても、本年度はより積極的に各会との連携を強化することで各会の発展に寄与するとともに、新しい会員を増やし、地域の骨粗鬆症啓発活動がさらに拡大していくことを期待しています。

第25回（平成29年度）財団研究助成選考結果

平成29年度の財団研究助成選考会が平成29年2月11日に開催され、以下の通り一般課題5題、指定課題2題が選ばれました。今回の応募総数は全体で39件でした。現在既に助成金が支給され、受賞した先生方は今まさに研究に取り組んでいるものと思います。これらの助成研究から得られる研究成果に期待します。

	氏名（敬称略）	所属	課題
一般課題	麻生 真理子	九州大学大学院薬学研究院 創薬科学	骨粗鬆症治療への応用を目指した骨親和性蛋白質医薬品の開発
	高畑 雅彦	北海道大学大学院 医学研究科整形外科学分野	慢性腎臓病患者に発生するミネラル結晶及びコラーゲン分子の組織化障害と骨強度特性の変化
	寺口 真年	和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院 脊椎ケアセンター	運動器リハビリテーションが骨粗鬆症だけでなく健康寿命の延伸に影響する-大規模住民検診におけるAGE(終末糖化産物)と骨粗鬆症、サルコペニアの関連の検討-
	松本 ルミネ	東京大学医学部附属病院 検診部	骨密度と大脳深部白質病変および認知機能低下の関連についての検討
	森本 忠嗣	佐賀大学 整形外科	ペリオスチンと骨粗鬆症の関係について
指定課題	鳥羽 三佳代	東京医科歯科大学医学部附属病院 クオリティ・マネジメント・センター	妊娠後骨粗鬆症に起因する脆弱性骨折に関する疫学調査
	星野 雅俊	大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科教室	骨粗鬆症性椎体骨折と脊柱後弯症の因果関係の解明を目的とした都市圏大規模高齢者コホート研究

今後の研究助成（詳細は、財団ホームページまたはUMINのサイトを御確認ください）。

- 第14回リリー研究助成プログラム（公募期間：平成29年7月～8月）
- 第11回旭化成研究助成プログラム（公募期間：平成29年9月～10月）
- 第26回財団研究助成（公募期間：平成29年11月～12月）

■ 予告 ; ホームページを✓

財団ニュースの4ページ目に2017年の事業計画が記載されていますが、今年もプレスセミナーを企画しています。世界骨粗鬆症デー（WOD）キャンペーンの新しいポスター、骨量測定推進ムービー第2弾！など、WODに向けていろいろと事務局では準備しています。乞うご期待！。ホームページをチェックしてください。

- 世界骨粗鬆症デーキャンペーンポスター
- 世界骨粗鬆症デーキャンペーンプレスセミナー：9月27日 15時～ 霞山会館 牡丹の間
- 世界骨粗鬆症デーキャンペーン骨量測定推進ムービー第2弾

平成29年度 骨粗鬆症財団事業計画（抜粋）

平成29年度事業の基本方針

1. 環境の変化に対応した事業の発展・拡充
2. 市民ファーストの視点を明確化

- (1) 普及・啓発事業
- イ) 骨粗鬆症に関する資料・資料の作成と配布
- ・既存の資料：従来通り原則無料にて配布
 - ・世界骨粗鬆症デーキャンペーンポスター制作・配布
 - ・同リーフレット制作・配布
 - ・骨粗鬆症連携手帳の制作と配布（★新規）
 - ・骨量測定推進ムービー第2弾の制作
 - ・薬剤師向け教育資料の制作と提供（★新規）
- ロ) ホームページ、Facebook等での情報発信
- ・骨粗鬆症を啓発するためにHPをリニューアル
 - ・『病医院紹介』充実；他の紹介サイトと相互リンク
 - ・骨粗鬆症アカデミーページの制作（★新規）
- ハ) 広報誌等による情報発信
- ・財団ニュース；従来通りeメールにて配信
 - ・患者やその家族を対象とした情報誌を発行（★新規）
- 二) 世界骨粗鬆症デー（WOD）キャンペーン
- ・プレスセミナー：9/27に開催（霞山会館）
- ホ) 骨量測定拡大キャンペーン
- ・骨量測定推進ポスターの制作と配布（★新規）
 - ・QUS（超音波骨量測定器）による他団体・組織での骨量測定体験会を支援（★新規）
- ヘ) 地域「骨を守る会」の支援・連携の拡大
- ・各地域の骨を守る会の市民啓発活動を支援
 - ・各地域の骨を守る会に対し資金助成
 - ・第7回全国骨を守る会 開催
 - ・未組織化地域（四国など）において組織化を探る
- ト) セミナー・講習会の開催
- ・教育ゼミナールはニーズに応じて不定期開催
 - ・「精度よくDXAで骨量を測るにはe-ラーニング
- チ) 電話、E-mail、ホームページから寄せられる相談・質問等へ対応
- (2) 研究助成事業
- イ) 第26回財団研究助成
- （研究期間：平成30年4月～平成31年3月）
- ・一般課題：5題の選定（1題60万円）
 - ・指定課題：3題の選定（総額300万円）
 - ・募集：平成29年11月1日～12月の最終営業日
- ロ) 第14回リリー研究助成プログラム（骨領域研究）
- （研究期間：平成30年1月～12月）
- ・10題の選定（1題80万円）
 - ・募集：平成29年7月1日～8月31日
- ハ) 第11回旭化成研究助成プログラム（骨粗鬆症とそれを取り巻く諸問題）
- （研究期間：平成30年4月～平成31年3月）
- ・8題の選定（1題50万円）
 - ・募集：平成29年9月1日～10月31日
- (3) 調査・研究事業
- イ) 骨粗鬆症診療実態調査
- ・北海道での大腿骨近位部骨折発生状況調査を論文化
 - ・National Data Base 解析による全国での大腿骨近位部骨折発生状況・検査や薬物治療の実態評価
- ロ) 骨粗鬆症治療薬服用に関するアンケート調査の論文化（HAPPINESS-J Study）
- ハ) 第6回大腿骨近位部骨折全国調査の実施（★新規）
- 二) A-TOP JPOINT研究データを利用した調査（★新規）
- ・高齢者における骨粗鬆症の病態の多様性について解析
- (4) 情報収集&国際交流
- イ) IOFとの情報交換と連携強化
- ・Board Meeting（電話会議、WCO2018（クラクフポーランド）でのF2F会議）
- ロ) 厚生労働省健康局がん対策・健康増進課への協力要請
- ハ) 健康日本21推進全国連絡協議会との情報交換
- 二) 関連団体等との情報交換&連携強化
- ・日本老年学会・日本骨粗鬆症学会等との連携
 - ・賛助会員との情報交換；賛助会員メーカー会開催
- 【収益事業等】
- イ) 著作権関連事業
- 財団資料・ホームページなど、骨粗鬆症財団が有する著作権の譲渡又は提供
- 【その他】
- イ) 賛助会員増強や寄附金募集の推進
- ・骨粗鬆症及び健康関連企業の賛助会員募集
 - ・個人賛助会員募集

■ 事務所移転のお知らせ

骨粗鬆症財団の事務局が8月に移転しました。新住所は下記となります。

- 変更後 〒 103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町2番14号 パールビル5階
- (■ 現在 〒 103-0024 東京都中央区日本橋小舟町11番2号)

※電話番号につきましては変更ありません。